

育て収穫したコメ使用 秋田北鷹高生 27 人 きりたんぽ作りに挑戦



自分たちで作ったコメできりたんぽ作りに挑戦する生徒

北秋田市の秋田北鷹高校の1年生27人が17日、授業で生産したコメを使ってきりたんぽ作りに挑戦した。鍋にして味わい、収穫の喜びを実感した。

同校生物資源科では農作物について学ぶ「総合実習」の授業でコメ作りに取り組んでいる。今年は5月下旬にあきたこまの苗を植え、10月上旬に約10アール分を収穫した。

今年は猛暑により収量が若干落ちたものの、質の良いコメが取れたという。

生徒は炊きたてのあきたこまをボウルに入れてつぶし、棒に巻き付けて形を整えた。炭火の上にきりたんぽを置き、全体にこんがり焼き目が付くよう棒を回しながら、じっくりと焼き上げた。

校内で育てた比内地鶏とネギも使い、きりたんぽ鍋を調理。完成後は出来上がった鍋を囲み、「おいしい」「しっかり焼けている」などと笑顔を見せながら味わった。



荒川知聖さんは「焦げ過ぎないように加減しながら焼くのが難しかった。自分たちが作ったコメがおいしいきりたんぽになって、頑張って生産したかいがあった」と話した。(石塚佳治) (令和5年11月20日(月)秋田魁新聞より一部抜粋)